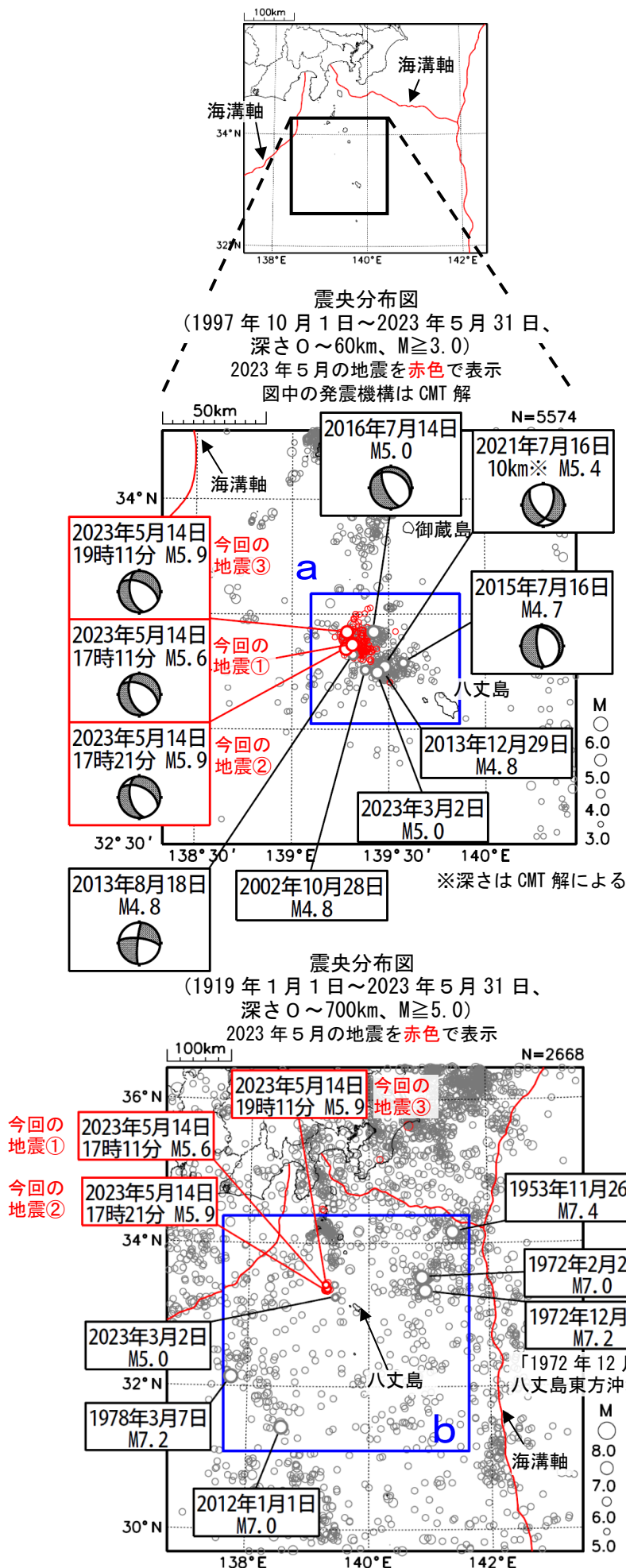


八丈島近海の地震活動



八丈島近海の領域aでは2023年5月14日16時頃から地震活動が活発となっており、31日までに震度1以上を観測した地震が13回(震度3:1回、震度2:4回、震度1:8回)発生している。5月14日17時11分には $M5.6$ の地震(最大震度3、今回の地震①)が、同日17時21分(今回の地震②)と19時11分(今回の地震③)には $M5.9$ の地震(ともに最大震度2)が発生した。これらの地震はフィリピン海プレート内で発生した。今回の地震①～③の発震機構(CMT解)は北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)では過去に何度かまとまった活動が発生している。2002年8月～11月の活動では、震度1以上を観測する地震が36回、2015年7月の活動では11回、2016年7月の活動では6回、2021年7月の活動では14回、2023年3月の活動では3回発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では $M6.0$ 以上の地震が時々発生している。1972年12月4日には「1972年12月4日八丈島東方沖地震」($M7.2$ 、最大震度6)が発生し、串本町袋港で高さ35cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測した。またこの地震により、断水3,169世帯、土砂崩壊多数などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域a内のM-T図及び回数積算図

